



EASTER VILLAGE



イースタービレッジだより・第 31 号

クリスマス号



子どもたちの絆

絆 クリスマスに寄せて 祐川郁生神父

絆とは、相手に何をしてあげられるかを思い続けること・・・師走、日本でも家族の絆を再確認するために帰郷する人が増える。都会で一人、カウンターで食事をしていた人も、家族とともに食卓を囲む団欒のひと時を楽しみにする。都会の無関心社会から常に自分のことを思い続けてくれる家族のもとへと急ぐ。

EVではやはりこの時期、子どもたちは家族への思いを募らせる。日本以上にフィリピンは国中で家族愛を訴える時期、ほとんどの人たちが帰省する。子どもたちの気持ちを考えると心が痛む。だからこそ、余計にクリスマスの飾りつけを大げさにしている。

クリスマスとは、神が相手に何をしてあげるかを思い続け、その思いが、独り子をこの世に送った出来事を祝う。神と人間の絆を祝うのだ。すべての造り主が一人の赤子になった。そして、救い主であることのしるしは、「飼い葉桶に寝ている」ことであるという。人が居るべき場所ではなく、動物が居るべき低きにくだったのだ。それは、居場所のない人とも絆を結ぶための神の慈悲深いからいである。神の居場所、それは人々の中、人の間、人間なのだ。

クリスマスの意味を知り、その喜びを分かち合うことを考えるのであれば、いま、すぐ近くに居場所のない人を訪れ、あなたは決してひとりではないと言ってあげることではないか。喜びは分かちあえば無限に大きくなるものだ。物質的より精神的飢餓にあえぐ日本の人たちは絆を結ぶ友が必要なのだ。

神が人間と結んだ絆、それを敬い、拝むよりも、神がなされたことをまねること。小さな力にすぎない一人の人間が居場所のない誰かの友になれば、この世はもっと愛に満ちたものになるのではないだろうか。

ホープホームより

今年の6月に始まったホープホーム。年齢の上の子どもたちが自立して生活する準備のプログラムです。スタートしてから今日まで、喜びや困難など、本人たちに感想を聞いてみました。



サミーは16歳でまだ小学校6年生ですが、張り切って学校に通っています。

EVに戻ってきて、今までスタッフに教えてくれたことの大事さに気づきました。

掃除、洗濯、そして料理など...特に自分で予算を考え、毎日の食事の準備や買い物をするのはとても大変です。多く買い過ぎたり、少なく買ったりと失敗しながら、多くのことを学んでいます。

サミー



ハニーは20歳。ウィナリンと同じ大学の同じ学部で産学専攻。

ホープホームで学んでいる一番のことは、自分で計画を立てるということです。水道代、電気代などもすべて考えて食事などのことを考えるのは本当に大変です。

でも、自分たちの畑があるので、野菜などが収穫できれば家計が本当に助かります。主婦の大変さがいまから味わっているようですが、毎日が楽しいです。学校の勉強も頑張ろうと思っています。ハニー



ゴゴが11歳の時の写真。歌うときは涙目になるのは今も変わらず。

EVの活動を支えてくださる方々にまず御礼申し上げます。買い物、料理、洗濯などすべて自分たちで行うホープホームは学ぶことが多いです。また自分の将来について真剣にいろいろと考えるようになりました。

一緒に暮らす仲間たちがいるので相談もできるし幸せな毎日です。時々僕の作った料理への不満もありますが、いい仲間たちです。今までは女性が料理するものとばかり思っていました。男もやらなきゃいけないこと言う事に気づきました。

ゴゴ



現在17歳。大学でエンジニアリングの勉強中。ギターも上手になり、ミサの伴奏もしてくれます。

ホープホームでは自分たち自身で決めることが多いので、決断の難しさを味わっています。携帯電話にお金を使いすぎるとおかず代がなくなったり、おやつを犠牲にしたりと、限られた予算で自分で決めなければ、つけは自分に返ってきます。自分自身で考え、行動することの難しさと大事さを体験しています。

アナリン



アナリン 10歳の時の写真。現在は16歳。高校4年生で、来年は大学進学を希望しています。どなたかスポンサーになっていただけるとありがたいです。本人はスチュワーデスを希望とか。





ダンテが12歳の時の写真。現在は18歳で高校2年生。マノボ族の誇りと伝統を大事にしつつ、勉強を頑張っています。歌が上手でひょうきんな良いお兄さん。サミーの実兄です。

EVに帰り、生活に必要なものがすべて揃っているので幸せを感じています。ただ、自分たちですべて生活のことは行つので、おかずなどの予算を考えたり難しさも体験しています。僕が料理担当のときは、いつも同じメニューなのでみんなから文句が殺到。これから別メニューの研究もしなきゃ。

家には多くの決まりごとがありますが、みんなで話し合い、納得しますが、

なのでとてもよいことだと思っています。自分たちで決めたのですから。

また、自分たちで畑を作る楽しさも味わっています。特に自分たちの育てた野菜が食卓に出てくるときは最高の気分です。スタッフの助けもあります。自分たちで予算を組み、失敗しながらも自立していける自信が少しずつできました。ホープホームを実現してください。方々に御礼申し上げます。

ダンテ



子どもたちのお姉さん役のウィナリン。

ウィナリンは現在通っている大学の近くに住んでいます。土曜日、日曜日、学校が休みの時はい

つもEVでボランティアをしてくれています。産科学を勉強している二十歳です。

EVCC新ビルディング

8月に着工したチャイルド・ケアセンターは建物の外観が出来上がり、1月中には完成の予定です。ご覧の通り、形はイースタービレッジホームと似ていますね。

6月の新学期に向けて、少しずつ準備をしています。今までよりも多くの園児が通えるようになります。



自立に向けての一歩でもあるセンター。地域子どもたちへの貢献にもなり、一石二鳥を狙っています。



ご寄付いただいた方々、
心より御礼申し上げます

北澤麻奈 大塚美知子
カトリック湯川教会・マルタ会
カトリック円山教会・イースタービレッジを支える会
カトリック北26条教会
榎本みつ枝 中村ヨリ子
カトリック真駒内教会
萬屋三男 さゆり幼稚園保護会
子供の未来を育てる会
カトリック月寒教会バザー委員会
阿部秀子 舩田富榮 浜田充啓
阿部壽秋 只見真喜子 西川哲彌
濱村みち子 扇谷ウタ子 祐川眞一
水口透 水上みち子 上野祐子
西村尚子 カトリック北広島教会
聖心女子大学同窓会宮代会北海道支部
川成靖夫 久川洋子 水曜会
エミール・デumas 鈴木利夫
三林マリ子 佐々木由美子
カトリック円山教会
端博子 辻知子 高桑昌子
藤井貞子 寺田多嘉子 辻桂子
木村誠・真由美 腰崎征夫
珍田亮 佐々木賢秀
小川昭子 大箱あつし
本田修二・メレス
その他匿名の方々



2010年8月3日～11月6日

EVCCの活動

現在はバジン先生とビビアン先生が35名ほどの子どもたちの保育にあたっています。シスター勝も日本での幼稚園教諭の経験をもちますので、フィリピンの保育の仕方を観察しつつ、お手伝いいただいております。これからは日本の



シスター勝は、フィリピンではシスター・ジョアンナと呼ばれています。EVCCで保育のお手伝いの他に、職員や子どもたちにピアノやピアノカ、モッキンなどを教えてくれます。チャペルではゴゴと一緒にオルガニストとしても活躍中。

良い部分とフィリピンの良い部分を合わせた質の高い保育ができればと思っています。



ラクバイ・アラルと呼ばれる園外保育で、市役所、カテドラル教会、警察署、消防署などを見学。消防車に乗せてもらって大喜びの子どもたちでした。

EVの昨日今日

子ども月のお祝い

10月は「子ども月」をフィリピンでは祝います。今年はキダパワンの近辺の4つの施設合同で、子ども月の一日を楽しく有意義に過ごしました。

最初にドロップイン・センターという施設の敷地内で植林を体験。ドリアン、ランソーネス、ランブータンなどの果物の木を植えました。その後、講師から環境を守る大事



さを聞きました。特にフィリピンでは遅れているゴミの分別についても勉強になりました。実験なども交えての講師の話は子どもたちが自然を守る必要性和自覚を育んだようです。



たくさんの果実が実るように願いながら植樹する子どもたち。ドロップインセンターにて。

その後、みんなで市のプラザに出かけ、そこでおやつを食べたり、様々なゲームをして遊んだり、交友を深めるプログラムでした。それぞれの施設が役割を分担して職員同志にとっても良い機会となりました。みんなが有意義に楽しんだ子ども月のお祝いの一日となりました。



ゲームで大奮闘のケニス。小麦粉の中に入っているアメを手を使わずに取り出すというゲームで。

山名田静さんより投稿

ハイビスカスとブルーゲンビリアが彩る澄み渡る青空や、南十字星をはじめとする満天の星空と同じように、子どもたちの存在はすっかり当たり前のようになり私の隣にあります。

イースタービレッジの子どもたちと同じ屋根の下で過ごした4ヶ月半の後、8月末から首都マニラで佐藤神父さまのもと、ろうあ者の方々と生活を共にしながら当初の目的であるボランティア活動や福祉施設訪問をはじめ、英語の勉強や旅をするなど私なりに精一杯過ごしてきました。

確かな手応えを感じるほど自分にとって大きくプラスになった経験を経て、何度想いを馳せたかわからない子どもたちの笑顔にまた帰ってきたのです。

この2ヶ月半、私にとっての「帰る場所」はイースタービレッジでした。

それは日本を旅立つときに家族や友人が温かく送り出してくれたのと同じように、自分を支え

てくれる確かなもの。会った瞬間に一斉に駆けよって来てくれたときの安堵感。子どもたちは旅立ちの日と同じように、特別きつく抱きしめてくれました。

久しぶりにあった子どもたちは旅立ちの前よりも大きくなったはずなのに、ずっと甘えん坊になっ

ていて、恋しがっていた私の胸をさらにキユンとしめつけます。それからまもなく、こんなことがありました。

イースタービレッジ内には、体調不良や病気の子を安静にして感染を防ぐためのお部屋があります。いまは幼稚園世代の女の子3人が皮膚の病気のために他の子どもたちと離れてその部屋で過ごしていて、私がこの子たちと遊んでいると、みんなが「ねえ、アテしずか。今日はこの部屋で一緒に寝ようよ。」と言いだしました。皮膚病がうつる危険性もあるし、おねしょをかけられる可能性もあるということでしたが、神父さまやスタッフから承諾が得られたので、一晚を共にすることに。

子どもたちも私も、すっかり気分は「お泊まり会」モード。私の右

と左と膝の上に1人ずつ、4人でかたまつてTVを観て、最後は川の字のようになって1つのベッドで寝ました。

甘えられることの喜びをこんなにも感じられるのは、イースタービレッジの魔法だと思っています。きつとここを訪れる人たちはみんなこの魔法にかかって、私と同じように子どもたちが愛おしくて仕方なくなるでしょう。

私はいま、大自然と子どもたちの笑顔に包まれて幸せを噛みしめつつ、限られた残りの滞在期間と日本に帰った後のことを考えています。



子どもたちにバルーンアートや折り紙などを教えてくれる優しいアテ・シズカです。

EVの床屋さん

EVでは、名コックのドドイ君が主に子どもたちの床屋さんをしています。料理の他にもいろいろなタレントを持っている彼は、EVの奨学生で大学も卒業し、ここで働いてくれています。



もともと髪の毛が少なかったマージェイラでしたが、一歳の誕生日をすぎて、初散髪です。



誕生日おめでとう

9月からの誕生日を迎えた子どもたちを紹介します。

9月4日に7歳になったジョナタン、7日に9歳になったジョリート、二人は兄弟です。妹のジェニスの用心棒のようによく妹を可愛がり仲の良い兄弟です。二人とも仲良く小学一年生。



仲の良い兄弟。時々、いたずら大将のディンブルなどと一緒に脱走や、悪さをしますが、大粒の涙で「ごめんなさい」を言う姿は可愛らしいです。勉強は二人ともちょっと苦手ですが、元気だけは一等賞です。

9月8日で13歳になったケニス。最近では脱走の回数が減ってきました。少しお兄さんの自覚が出てきたかと期待しています。非常に頭が良いので、良い方向にその知能を使ってもらいたいと職員談。



姉のビビと弟のディンブルと三人がEVに長くいます。

9月13日はアナリンの16回目の誕生日。高校4年生で、スチュワードスを夢見る乙女（2ページの下を参照）。
10月22日はカサンドラ・ユミの4歳の誕生日。いつも大きな声で歌を口ずさんでいます。最近は歌のみならず、ダンスをしながらの歌に進化してきました。笑顔の素敵な女の子です。



いつもは輝くような笑顔なのですが、この写真を撮った時はお機嫌斜め。お昼寝の最中、無理やり起こされてしまったようです。ごめんなさい。



イースタービレッジ雑感 (25)



今回は、フィリピンのクリスマスの様子をシスターに書いていただきました。

フィリピンのクリスマス

カトリックの国フィリピンのクリスマスは太陽が照りつけ、華やかで賑やかに祝われますが、単なるお祭り騒ぎではありません。すべての人の救いを望んでみどり子の姿で誕生し、私達の罪の贖いのため苦しみの道を歩み十字架上の死を通して復活し、今も私達と共にいて下さるキリストの誕生を感謝し喜び祝う大きなお祭りです。

12月16日からは、フィリピン中の各教会でノベナ（祭日を迎える準備の為の9日間の祈り）が始まります。これはミサ・デ・ガリオ（早朝ミサ）といわれ毎朝4時30分から始まります。



祐川神父様はマキララ小教区の担当ですから広範囲に点在する57の教会を他の2人の神父様と3人で巡回されますから、当然全教会は回り切れません。去年は遠くの教会へ行かれる時は3時30分出発でしたが、何人かの子供達は毎日自主的に起床して、私達と一緒に神父様のお伴をしました。ほとんど街灯はなく、暗闇をライトの光を頼りに車は走ります。特に国道から入って山の方の教会へ向う時はまわりは何もみえません。通い慣れていらいっしょとは言え、暗くてせまい道を運転される神父様には脱帽です。教会はどの教会もイエズス様をお迎えするために趣向を凝らして装飾され明るく輝いてみえて来ます。ミサの準備をして待っている信徒の皆さん。ミサが始まる頃は聖堂の外まであふれる人でいっぱいです。中には3時から山道を歩いて下りて来たと言われた高齢の方も。

神父さまが来られる事がわかれば自分のバランガイ（集落）の教会でなくてもミサに予るためにこうして集ってくるのです。ミサが終るとそれぞれが「メリークリスマス」「ハッピーバースデー」「ハッピーニューイヤー」とあいさつを交わします。最初はまだ待降節なのに？と戸惑いましたが考えてみれば神様の救いのわざに暦はなく御子の誕生が12月25日とは聖書のどこにも記されていません。典礼の新年は待降節からはじまっているのだからこれでよいのだと納得する私です。こうして準備し12月24日の夜半ミサは大祭日の幕開けです。



教会に向う時は暗かった国道沿いの教会への道もハイウェーとは名ばかりの凸凹道ですが、左右に広がるバナナ畑、ヤシの木林、年中咲いている南国の花を眺めながら。山の教会からの帰り道は暗闇が光に変わり、行く時はまったく見えなかった民家が林道をはさんであちらこちらに建ち並び「主よ おいで下さい」と云うようにモールやリースで飾られていました。今明け初めた朝やけの空には高く聳えるヤシの木が映えて本当に美しい自然界です。今年もこの神の創造の美しさの中で2度目のクリスマスを迎えようとしております。

Sr. 春日井和子



< 支援のお願い >

フィリピン南部にあるイースタービレッジ・ミンダナオは善意ある日本の皆様に支えられています。貧困と紛争の犠牲者となっている声なき子どもたちを私たちが支え、そして彼ら自身が自立し、貧困と紛争の原因を取り除く平和の使者となるようにできるだけの援助をしたいと考えています。与える以上に受けるものの方が本当はもっと多いのです。援助をくださる方は下記事務局にご連絡くださいませ。

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」(支援者募集)

代 表 勝谷 太治 事務局 鈴木 みち子 松川 厚明

060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10 カトリック札幌司教館内

「イースタービレッジ・ミンダナオを支える会」事務局

011-241-2785 Fax 011-221-3668

支援金 : 年会費一口 ¥5,000 (一口以上) 一般寄付

郵便振替口座番号: 02760-3-39473

口座名称: イースタービレッジ・ミンダナオを支える会

現地事務所: EASTER VILLAGE OFFICE

Riverpark Subd., Kidapawan City 9400 Cotabato Philippines

Tel: 63-64-278-4742 Fax: 278-3116 Email: info@eastervillage.com

Website: <http://eastervillage.com>

* 会員、並びに奨学生を支えて下さっているスポンサーの方々、一般のご寄付を下さった方々には継続してこのたよりを送らせていただきます。(年四回)

2010年12月

「イースタービレッジだより第31号」

発行責任者: 祐川

